

# 同窓生の活躍

# Interview



**Q1: 漫画家を目指したきっかけは？**

漫画家になりたいと思ったのは小学校1年生。ーらしいーというのは、私は覚えてなくて、担任だった先生が覚えていました。途中でやめたりしたけど、結局漫画家を志したのは中学2年生の頃。はつきり決めた高校生の時は夢ではなく目的です。

**Q2: 高校卒業後は？**

アルバイトして貯金し19歳の春に上京。東京デザインカレッジ夜間部に入学。アルバイト、会社勤務などをしながら通学。そのカレッジが夏に倒産。(後期の授業料、納める前でよかった)

高校の頃から出版社に投稿を続け、1970年雑誌「ファンシー」でデビュー。以後何とかかんとか漫画を描き続けています。

**Q3: おもな作品は？**

おおざっぱに分けると、  
「千歳のしらべ」など、民話・伝説もの  
「やさしい番長シリーズ」などのコメディ  
「モンゴル滞在記」現在7巻

**Q4: 嘉穂東高校での思い出は？**

高校時代は美術部に1年在籍。体育祭のキャンプファイヤー、うらやましいというか悔しいというか、何で男子ばかりで女子は参加できないの...と。それを漫画に描いてしまいました。

あまり勉強に身を入れなかつたので友だちのおしゃべり、世の中の事や人間のことや哲学(?)やら。飯塚中の古本屋や書店を



松下るり子さん  
(高校20回生)

漫画家  
ペンネーム: 松本るい  
嘉穂郡穎田町出身



まわって立ち読みしていました。担任の先生は不良になったのではと心配していたようです、他の先生が見かけて報告したのでしょうね。他愛のない、益体もない、自由なよくある青春をやっていました。

**Q5: 母校の生徒にメッセージを**

若い人には、頭の中を自由にしておいて心の中はしっかり核を持って下さい。高校時代は、いろいろな事を考え、吸収し、核を作る時期です。

【編集部より】

東京支部総会に参加されていた松下さんを取材させていただきました。今後は、「大分由布院に移住して、絵や漫画を描きながらパートで働いて生きて行く」と準備中。」とのこと。松下さんの今後のご活躍を祈念いたします。

広報部長 永井潤子(高校32回生)

